（昭和二年九月十九日
第三種郵便物認可）

（十四日夕刊）

平新聞

休刊大祭祝日毎日曜
定價｛一枚二錢壹ヶ月三十錢郵税十五錢
廣告料｛雜報欄五十錢場所指定二十錢增
發行兼編輯印刷人　市島範三
福島縣平町仲町三番地
發行所　平新聞社

時評

人に由りて、其害の廢すべからざるを知る、然れども聖賢の教に從ふも、智意の伴ふにあらざれば事終に成らず、勤儉貯蓄は美風なり、最も力めざるべからず然れども徒勞吝嗇は、勤儉と名づくべからず、小利に眩惑し、虚誇の言に迷ひ人に財を托するが如きは貯蓄と云ふべからず。

温良恭謙は盛德なり、柔弱は温良と云ふべからず、屈伏は恭謙と云ふべからず勇猛剛毅は凌〓傲に流れ博學多才は、驕慢多言に變す、故に釋迦は、布施、持戒精進、靜慮、の五は智意の攝する所とせり、智の至るにあらざれば事皆成る能はず事を行ふ者深く察せざるべからず。

× × ×

世に鄙吝なるものあり、自己の財寶を惜みて人に示さず、徒らに秘藏するあり是れ愚の極なり、財寶は人の最も多く使用するにより其の價値を生ず、今日金銀を土中に死藏する富者あらば、恐らくは萬人の笑とならん、然れども個人にして是れを行へば、人是れを笑ふ、國家にして是を行へば人の敢て笑ふ者なし。

今日の支那の如き、利權回復も出來ざるに、妄りに外人の企業を拒み居るは、有効に流通せられたる、金銀を土中に埋藏せると更に別つ處なし、唯夫れ國家の是れを行ふて、人の嘲笑せざるは、國家の大さ、個人を超越せるによる個人是れを行ふに愚にして國家是れを行ふに賢なるに非るなり

凡そ事には波瀾あり屈曲あり勢には順あり逆あり疾あり緩あり決して平靜にあらず、請ふ看よ中流急速なれば岸に沿ふて反對流を生ず三峽の如きは其適例なり然らば勢を察して事を謀らば百事成らざるなし、堅舟は逆風猶ほ行くべし、船師の能否は成敗を生じ風の順逆に關せざるなり、されど無風死水に於ては勢の利すべきなく、乘ずべきなし船師の能く及ぶ所にあらず、木平逸樂の世には英雄の出つるありと雖も亦頽勢を挽回する能はざるなり吾寧ろ國歩艱難に敵國外患の常に存するを喜ぶなり。

小説

待合政治（一）

AM生

若い女が十人ばかり居るキチンとしたのはその髷ばかりでこれはまた第一公式とも謂ふべく、島田と云ひ銀杏返しと云ひハイカラと云ひ一本の亂れ毛もないやうに整理されてゐる云はば髷の見本を並べたやうなものである。

それから一歩下つて御面想を見ると美人あり不美人あり別嬪、中嬪、下嬪中には吾輩によく似た容貌を有してゐるのもある何れも公々然として天日に對するのを避けたものか白色の液体もしくば粉末を塗抹してゐる白粉と稱する皮を一ト皮かむつてゐる、その皮に厚薄がある中には破れた個所もある、これを美くしといふと春の雪が芝生にむら消えんとしてゐるとでもいふんだし、本當に云へば古い奴だが石灰小舍の鼬といふ格である、更にその下を見ると着物だ、膝の抜けたお召色の褪せた長襦袢、何れも帶を括めてゐるものは一人もない、俗に伊達巻といふものを括めてゐるが、それも多くは空解けて僅かに巻いてゐるといふばかり、一向ダラシのないものである、それからこの十人あまりの女が一人として立つてゐるものもない、座つてゐるものもない、みんなぐ●ん●な●り●と寢そべつて居る、腹ン這になつてゐる只揃つてゐるのは頭ばかりで、時計の針のやうに一個の中心から四方へ足を投じ出てゐる

それからその中心の處に袋に入つた煎豆が置かれ、盆の上には堆いばかりにその皮が積まれてゐる、十人の女が交る〳〵手を出して煎豆を摘み取り皮を剝いてパリ〳〵と喰ふ、一人一音はさして高くもないが十人十音となるとそのパリ〳〵だつて決して小さな響きではない。家形にゐる藝妓といふものは、こんなだらしのないもんだこんな動物に對し惚れたとか膨れたとかいふお客なるものが馬鹿である、お客なるものにこの醜態が見せたい。

『ちよいと、美ちやん。昨夜のお客ッたら可愛さうになつたのよ。

『可愛さうッて何う、惚れてやつたの』

『そんなんぢやないわ八時から十一時まで彈き詰めなんだもの本當に厭になッちまつたわ』

『ぢや、こちらが可愛さうぢやないの』

『それからさ、若い男が五人もよつてさ歸りがけにお前等氣の毒だつたねといつてくれたのが五十錢さ』

マンドリン、ヴアイオリン
ハーモニカ、各種樂器類
其他附屬品一式
菊屋樂器店
平町二丁目角

銘酒白菊正宗發賣元
和洋酒罐詰問屋
廣瀬支店
平町田町
電話五十四番
振替東京四七二九

いよ〳〵食肉の節となりました
牛なべなら是非牛豚肉專門の
大塚亭へ
平劇場前
電話六六七番

糸類雜貨玩具お茶
いづや商店
平町二丁目
電話六四九番

洋服
高島屋
平驛前

平名物
淺草豆
平驛通り

皆樣弊店には
秋冬の品が豐富に取揃へました
から、お客本位の大廉價主義の
ヨドヤ雜貨店に
是非〳〵御用命を!!
平町三丁目

おいしいお菓子と、ねだんの安い
大勉强振の菓子は
平町の
日進堂へ
電話三三六番

十一月より冬物大賣出し致ます
秋冬の洋品は是非〳〵
萩野洋品店へ
平町驛前

大工道具。御料理庖丁。
理髮道具。其他小物一式
佐々木刄物店
平三丁目（三井呉服店前）

信用と責任本位を
モツトーとせる
電動機　變壓器
發電機　蓄電池
石油發動機揚水ポンプ
精米機　精麥機
各種メタル調車類
各種ベルト諸機械
金銀ニツケル鍍金
修繕販賣
正金商會
平町七丁目

本日より牛肉大賣出し
牛豚肉
深谷肉店
電話五二四番
平驛前

やな川
牛鳥肉なべ
石川亭
平町田町電話四三番

萬染物大勉强
鈴木染物店
平町南町

品川白煉湯本支工場
職工馘首から形勢不穩

品川白煉瓦株式會社では十二日午後三時突如湯本町支場の從業員小野繁藏外二十一名を怠業を理由として解雇すべく

湯本町 事務所に召集州川主任直接辭令を手渡しせんとしたので從業員は非常に憤慨し平湯本の各從業員は絶對に解雇しないと聲明して置きながら曩に平工場の十名今回は湯本工場で二十二名を馘首するとは不埒千萬であるとの不穩の形勢を示し全從業員は會社に向つて抗議を申込んだが馘首言渡しを受けた二十二名の從業員は直に辭令を突き返し新に片山澤吉外十五の交渉委員を擧げて復職高を州川主任まで迫り十三日午前八時半十五名の交渉委員は州川主任と會見し交渉の結果會社として絶對復職の要求を容れることは出來ないとの返事に從業員は

引揚げ 直ちに從業員大會を開いて善後策を協議し飽まで會社に向つて抗議を爲すべく決議したらしいが十四日早朝東京本社に交渉の爲め上京中の湯本工場從業員代表者小野繁藏氏の歸るを待つて罷業に移る形勢であり平署では萬一を慮り警戒中である

全從業員の態度決す

前項の如く突如二十二名を解雇した白川白煉瓦株式會社湯本工場では十三日早朝から管內の平赤井各主任及び事務員を召集し對策の協議を爲したが今回の解雇は全く會社當局の誤つた處置だとして一般に非難の聲が上つてゐる尚ほ突如解雇にあつた事から全從業員は大いに憤慨し今正に罷業に入らんとしてゐるが從業員側はあくまで穩健に粗暴な行動には出でないことを決議し正々堂々會社當局と交渉することゝなつた

結局は總罷業か

品川白煉瓦會社は收支が償はない爲め一般的に事業を縮少する方針であつた矢先關東合同勞働組合各支部が罷業を續け特に平湯本赤井各支工場では同情怠業をしてゐるのを口實に從業員を解雇したものであると言つてゐるものが多いが會社としては從業員解雇の理由を怠業を續けた結果とすれば大義名分が立つので容易に解雇の要求を容れて復職させるやうなことはないであらうから結局は湯本工場を中心に總罷業に移るものと一般では觀測してゐる。

故白井遠平翁の
葬儀諸委員決定

白井遠平翁の葬儀は明十五日午前十時から平町南町裏磐城銀行埋立地大廣場に於て擧行することは昨報の如くであるがこれが準備委員會を紺屋町白井邸において開き諸係分擔は左の如く決定した

▲葬儀委員長　安島重三郎
▲同副委員長　中野浩忠
▲顧問　山崎與三郎、高岡唯一郎、諸橋久太郎、金成通
▲幹事　鈴木辰三郎、永田德一、古川傳一、小野晉平井上茂作、中野甲藏、諸橋守次、新田目善次郎、山崎吉平、伊澤淺之助、川崎文治、木田織江
▲式場建設係　主任加納五郎、高木信太郎、柳下元吉新妻信八、井上貞治郎、山崎庫太郎、柳內元藏、
▲支出係　主任新妻信八、柳下元吉、青木榮太郎、山崎庫太郎
▲受付係　主任佐々木龍若山岡卯之亟、關內菊次郎、國井民藏、吉川鎭政、二口武義、麻生川顯、志賀又吉山崎千朝、河西八十治、淺野英男吉、野禮泰、小野菊彌牧田豐、伏見又彥
▲案內係　第一部石城以外の部主任　千葉彥治、蓮沼龍輔、山田磐磨、丸山慶治鈴木堅助、明智淺吉、武田精一、平松武第二部郡內各地町內各位
▲法要係　主任山田忠太郎青木榮太郎、草野正壽
▲弔辭係　主任千葉彥治、佐藤作平、柏木哲
▲通信交通係　主任山田磐磨、井上貞次郎、遠藤俊一蓮沼龍輔外町內各位

田子氏の當選妨害で
在平民政派幹部召喚され
關係者戰々恟々

過般執行された縣會議員選擧に際し中立を標榜して立候補した田子健吉氏の當選妨害で平町に居る民政派の幹部が同氏より告訴された事は屢報の如くであるが福島地方裁判所島倉檢事正は小松監督書記と共に十三日來平し平檢事局にて取調の指揮監督をなし民政黨としては草野、村上、猪狩、吉田山野邊の諸氏該事件に最も關係ある木田織江氏及令息剛氏並に田子派遊說部員熊谷武司氏等を十二、十三兩日に亘りて窪田檢事係にて事實の取調をしたが事件の進展によりては若松野崎兩縣會議員の身邊に及さずとも限られず世人は事件のなり行に就て最注視してゐる

樽柿を獎勵

本郡の物產として有名なる身知らず柿を樽で澁ぬきを行ふことを神谷農試分場にて目下試驗中で其成績の如何に依つては地方一般に獎勵せんとて經費や味ひ等を調査して居るが是に就て同場主任稻田技師は語る澁拔き材料は炭酸瓦斯を使用するので大理石に鹽酸を注げば直ちに瓦斯が發生するので經費等も極めて安價に叉日數の如きも二三日に完全に出來上がる味は勿論のこと體裁も極めてよく

從來 の澁拔きよりも一ヶ月位早く輸送することが出來るので、これ程調法のものはないから是非試驗の上一般の人々に獎勵する

共濟委員會
本縣代表
十氏決定

共濟委員の第一回全國方面委員會議は十月二十一日から五日間東京明治神宮外苑日本青年館に於て開催される事で本縣にて十名囑托したが本郡よりは小名濱町小野務卆氏指定された

病患を苦慮して
好間の山中で縊死

石城郡好間村北好間本籍伊達郡梁川町仲町二三番地土工村田與七(四〇)は十三日午前十一時頃好間村行人澤附近山林內に於て縊死して居た事通行人が發見平署に屆出でたので係員出張檢視したが腦疾患を苦慮した結果右の仕末に及んだものだと

石城町村長
評議員會

町村長會石城支會評議員會は十四日午前十時より元石城郡衙に於て開き過般湯本町に開かれたる縣下町長會議後の整理其の他數件を附議したと

各地雜信

◇石城郡湯本町溫泉神社は近く工事四千圓を以て修繕をすることゝなり同町若松紺物治氏外數名が委員となり寄附募集を開始したが改修後は縣社に昇格すべく運動をなす筈であると

◇石城郡磐崎村大字上湯長谷志賀百太郎妻マンヨ（六八）は大正十四年頃から糖尿病にかゝり治療中昨年一月更に腦溢血を起して精神に異狀を呈したので百太郎は附近の志賀トラ（六四）を雇つて看護させてゐた處十二日午前一時家人の隙をうかがひ家出し自安裏手の古井戶に投身自殺をなした

平町新井博士に
にせ紹介狀を以て
郡山商工時報主幹

寄附金の强要郡山市で發行する旬刊新聞郡山商工時報主幹某は此程東北醫科大學附屬病院長醫學博士關內藩樹氏の紹介狀を持つて平町に來り磐城共濟病院長醫學博士新井寛治氏を訪れ右の紹介狀によつて寄附を要求して歸郡したが最近になつて此の關內博士紹介狀は眞赤な僞物である事が判明したので平署でも事實調査中

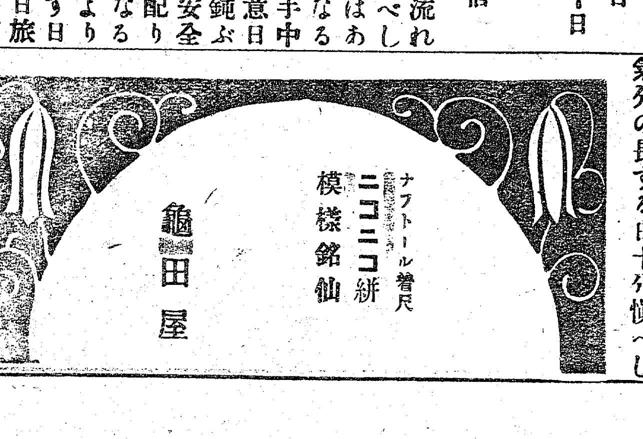
■佐々木刄物店

は平町三丁目（三井呉服店向ひ）である大工道具、御料理庖丁、理髮道具其の他小物一式の販賣店で來月より毎月四回の大工具デーなるものを催し大々的勉強するとの事であれば定めし賑ふ事なるべし

明日の運勢

十月十五日　舊九月二十日
土曜　胃
壬午　成宿
佛滅

●一白の人美衣美食に流れす程を守れば吉日たるべし
●二黑の人一旦の難みはありとも家は却て安樂となる
●三碧の人焦るときは手中の寶も失ふことある注意日
●四綠の人思慮分別に鈍ぶる日諸事目上に問ふが安全
●五黃の人收支に目を配りて油斷なければ吉日となる
●六白の人一時の辛抱より大なる幸福を生み來たす日
●七赤の人隆運に向ふ日旅行企業入等名弘め何れも吉
●八白の人出世の途開け來る好運日增資增築何れも吉
●九紫の人目上に反抗する氣分の長ずる日十分愼むべし


ナフトール著尺
ニコニコ絣
模樣銘仙
龜田屋

連日滿員御禮興行
プログラム

松竹獨特喜劇花見大脫線
噴飯絕天　珍優新井淳　渡邊篤　石川薰共演
落花の踊り　全五卷

◉松竹映畫阪東妻三郎一世一代熱演
邪痕魔道　最終篇
盲命に反逆し悲慘な現實に直面する榮之進は魔道に入り愛刀長船は血潮に染まり亂陣の極を盡す

◉日活映畫　讀賣新聞懸賞一等當選映畫　大久保謙治主演
滿蒙開發劇　大陸の彼方へ　全八卷
滿州を蒙古を我日本の二倍の面積を持つて產物に惠まれたる樂士であるこの大曠原に起る軍事探偵の悲壯物語り

原作大佛次郎　大衆時代映畫　河部五郎　大河內傳次郎　澤村春　共演
愈最終解決篇　照る日曇る日　全完
箱根山中の劍陣幕末騷亂伏見鳥羽の戰修羅場と化す加納八郎白雲堂年尾問題は今週解決す

十月十三日ヨリ

說明者
石井孝
谷天洋
林樂遊
小林完
南桃華

日土曜　學生デー

平館